ナシ、ブドウ、カキの魅力ある果樹産地（経営体）の育成

県南農林事務所経営・普及部門

石岡市では、生産者･JA･筑波大学･市役所･普及センターが連携し、ナシ･ブドウ･カキのほ場と樹を限定し、栽培及び選果基準（ナシ「幸水」の例：糖度 12%かつ 3L 以上、秀のみ）をクリアした果実を、差別化商品として PR 販売しています（いしおかフルーツプロジェクト　H25 ～）。

特にナシは、「幸水」の摘心栽培実証や、新品種「恵水」の栽培実証の結果、プロジェクト参加農家数も増加し（H25 → 26 → 27 → 28：3 名→ 6 名→ 17 名→ 34 名）、JA 新ひたち野石岡梨選果場に光センサー糖度計付選果機が導入されました（H27）。これにより、市内 2JA の 3 選果場（JA 新ひたち野石岡梨選果場、JA やさと梨部会小幡梨選果場、同園部梨選果場）から、プロジェクト参加農家のナシを石岡梨選果場に集荷し、組織の枠を越えた共選共販の新商品づくりが本格的に開始しました。

「幸水」摘心栽培の実証・普及

「幸水」の摘心栽培実証ほで、3.5t/10a かつ 4L 以上果率 97.2%を達成し、10a 当たり粗収益の試算は、摘心栽培未導入（産地平均）に比べ、約 50%の収益増となりました。選果場ごとに、当実証ほにおける講習会、現地検討会を開催し、技術普及した結果、プロジェクトの「幸水」摘心栽培取組農家数は、開始 2 年で 3 名→ 34 名に増加しました。

プロジェクト現地検討会
ナシ・ブドウ・カキの実証ほで新品種・新技術を検討。

新商品名「ありのみ」化粧箱
筑波大学芸術系教授・学生によるデザイン。

2JA3 選果場の組織の枠を越えて

産地によるプロジェクトの自主運営と、3 選果場間の交流による販売合理化等をねらいとし、3 選果場連携の協議会設置に向けた誘導を行いました。各選果場代表者らのプロジェクト参加への誘導、会議のセッティングにより、平成 28 年度中の設立に向けて合意形成されました。協議会では、プロジェクトにおける多様な販売の強化はもちろん、新品種・新技術の検討、食育活動にも取り組む予定です。

現在は、協議会役員候補らが中心となり、目揃え会や選果の運営を行っています。

新商品「ありのみ」誕生

平成 27 年に、ナシの差別化商品名が「ありのみ」に決まり、パッケージも一新しました。デザインは、プロジェクト開始当初から連携している筑波大学芸術系の教授・学生が担当しました。従来に無いデザインに、各方面からも高評価をいただいています。「ありのみ」は、厳しい規格のため数量は限られています。「ありのみ」を核とした、産地全体の技術の高位平準化、平均単価向上に向けて、今後も支援していきます。

「ありのみ　幸水」目揃え会
3 選果場のメンバーが一同に会して実施。